

起請文前書(長崎奉行拝任二付) 【稻生家文書 No. 二一六〇】

起請文前書

- 一 今度長崎奉行被 仰付候、弥重 公義
- 御為を第一奉存候、御役闇儀不仕相、役人者不及申
- 御一門諸大名諸傍輩等と奉対御為以悪心
- 申合一味仕間鋪事
- 一 長崎江被遣之付鋪而御仕置等之儀、毛頭依怙ひいき
仕間鋪事
- 一 御隱密之儀一切詫言仕間鋪候、惣別不寄
- 何事 公義御為存替儀御座有間敷候、
- 一 萬一不義之働仕輩於有之ハ承届急可急度可致
言上事、
- 一 上下道中并長崎逗留之間、以御威光対諸人
奢たる儀仕間敷候、勿論非儀申懸間敷事、
- 一 対御為相奉行と中悪不仕萬事相談之
刻不残心底申出之、其上御為能方二付可申事、
- 一 萬事不形儀なる儀一切仕間鋪事、
付先條々之趣、堅相守候様ニ申付与力・同心共ニ
誓詞可申付事、
- 一 於長崎自日本人手前人朔之外、礼物一切受用仕間敷事、
付異国人礼物之儀、是亦相定、忝度之外受用申間
鋪事、
- 右條々雖為一事、於致違犯者

巳三月十三日長崎御役被 仰付、同四月四日ニ於評定所、此誓詞仕